授業科目名	担当教員名	授業実施日	※
学問の面白さを知る「科学はみることから始まる」	飯島澄男	7月20日（火）	

学生番号	学部・学科	学年	氏名
0910306 9－2	農 応用生命科	1年	平田裕嗣

まず、飯島先生の演題を見たときに思ったのは、「どんな話をなさるのだろう」ということでした。それというのも、自然科学とは観察者と観察される対象があって初めて成立する学問なのだから、みることから始まるのは当然ではないかという気がしたからです。しかし、先生の講義を聴いてから改めて「みること」について考えさせられ、大きく2つのことに気付かされました。

1つは、私が考えていた「みること」は何らかのアプローチの手段をもって観察することと同じ意味だったということです。この「みること」は研究において、新しい疑問や本質の抽出、そして論の展開をなすまで重要な位置を占めています。それとともに、手段の発展が担う役割の大きさもわかりました。スライド中で炭素原子が鎖を形成する動画を見ましたが、とても感動し、またこの小さな世界が私たちの大きな世界を構成する要素であるという魅力も感じました。

講義後に気付いたのは「みる」ときの態度です。何か目の前にあるものを好奇心をもって、あるいは子どものように素直に「何で？」という気持ち、時には批評的な態度で「みること」こそ科学のはじまりではないでしょうか。その先に、研究のくり返しという挑戦があって、新発見が待ち、実力も兼ね備えた人の中には偶然が必然になるのだと思いました。

これから多くのことを学んでいきますが、勉強、遊びも含めた両面で受動的ではなく、新鮮な心とともに積極的な生活を送り、いろいろな世界を「みて」、楽しい知識をつみ重ねていきたいです。そして自分のやりたいことを見つけ、果敢に挑戦し、周りの人にも共感を与えられるような人間性を養っていきたいです。

＜最後に申し訳ないのですが、先生の一番、大きな失敗とは何ですか。＞